

環境戦略と指標

■ YKK精神

「善の巡環」 他人の利益を図らずして自らの繁栄はない



企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより、社会からその存在価値が認められる。YKK創業者の吉田忠雄は、事業を進めるにあたり、その点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えました。事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することによって事業の発展を図ることが、お客様、お取引先の繁栄につながり、社会貢献できると考えたのです。このような考え方を「善の巡環」と称し、常に事業活動の基本としてきました。私たちはこの考え方を受け継ぎ、YKK精神としています。

■ 経営理念

「更なるCORPORATE VALUEを求めて」



YKKは、更なるCORPORATE VALUE（企業価値）を求めて、
7つの分野に新たなQUALITY（質）を追求します。

YKKグループが「善の巡環」の精神に基づく経営理念として掲げるのが「更なるCORPORATE VALUEを求めて」です。私たちはお客様に喜ばれ、社会に評価され、社員が誇りと喜びを持って働ける会社でありたいと考えています。そのための手段として、商品、技術、経営の質を高めていきます。そして、これらを実践するにあたって常に根底にあるのが「公正」であり、これをあらゆる経営活動の基盤としています。

■ パーパス

「Architectural Productsで社会を幸せにする会社。」

Architectural Products
社会を幸せにする会社。
— We Build a Better Society Through Architectural Products —

いつの時代も私たちは、建築文化の根幹にあるArt（美しさ）とTechnology（技術力）にこだわり続けながら、
好奇心と探究心により、価値ある建築パーツ「Architectural Products」を生み出し、
人と自然、未来をつなぎ、幸せな社会を実現します。

YKK APのパーパスには、私たちの商品やサービスを通して社会に貢献する会社でありたいという想いが込められています。住宅やビルの構成要素である「Architectural Products（建築用工業製品）」で、お客様やお取引先の想いに応え続けること。それによって、お客様やお取引先、そして社会に貢献する会社であり続けること。「YKK AP」という社名に込めた想いを受け継ぎながら、変わりゆく社会の中で必要とされる存在であり続けたいと考えています。

理念について、詳細情報は[こちら](#) →

環境戦略と指標

■ トップメッセージ

「収益構造の変革」と「技術革新」で 持続的成長の礎を築く

YKK APは2023年に、“2030年のありたい姿、あるべき姿”を「世界のリーディングカンパニー」と定義するビジョン「Evolution 2030」を策定しました。リーディングカンパニーをめざす意義は、業界のプライスリーダーとして、高品質で付加価値の高い商品・サービスを適切な価格で提供し続けることにあります。そこで生み出した利益を、お客様、お取引先、社員へ還元し、持続的成長へとつなげていきます。これこそが、YKK精神「善の巡環」における「成果三分配」の実践であり、当社のパーパスである「Architectural Productsで社会を幸せにする会社。」の具現化であると考えています。

2025年度に始動した第7次中期事業計画は、2年目を迎えました。初年度の課題を踏まえ、「収益構造の変革」と「技術革新による価値創造」の実現に向けた取り組みを進めています。

「収益構造の変革」の中核として、リフォーム・改装分野へのシフトを進めています。日本国内の新設住宅着工戸数が減少する一方、リフォーム・改装分野では、既存ストック住宅の断熱性能向上に対する社会的要請が高まるなか、政府による住宅の省エネ化支援も追い風となり、需要は底堅く推移しています。住宅リフォーム・ビル改装市場における断熱改修需要を確実に捉えるため、専門の組織を拡充し、新築分野とともに継続的な成長を図る体制を構築しています。住宅向けの窓における高断熱窓化率100%をめざし、環境負荷低減と収益性向上を両立する樹脂窓の普及促進をさらに加速させます。

YKK APが進める技術開発の要諦は、社会課題の解決を、当社の持続的な成長を支える価値へと転換させることにあります。当社は樹脂窓のさらなる性能向上に加え、2024年に販売を開始した木製窓など、国産木材を活用した商品の展開を進めています。木製窓は、その意匠性やサステナブルな素材としての魅力だけでなく、素材の多様化により、外部環境の変化に左右されにくい安定的な調達体制を整えるという経営上の戦略的意義も有しています。

技術革新におけるもう一つの重要テーマが、環境負荷の低減です。資源循環の推進に加え、グリーンアルミの活用を進めることで、原材料由来のCO₂排出量の削減に取り組んでいます。断熱性能の高い窓や木製窓の普及、安定した生産供給体制の構築、そしてリフォーム・改装分野へのシフトを通じて、サステナブルな社会への貢献と収益性向上の両立を図ってまいります。

さらに当社が持続的な成長を成し遂げるための鍵は、社会の潜在的なニーズに応える新たな価値を創造し続けることにあります。2026年度は、真のリーディングカンパニーへの飛躍につなげる勝負の年として、一丸となって変革を進めてまいります。



代表取締役社長 魚津彰

<YKK AP環境経営方針>

YKK AP環境経営方針（2025～2028年度）

環境価値創出による地球環境への貢献
～カーボンニュートラル実現に向けて～

YKK APは、環境負荷低減と環境価値創出により、
現在および将来世代の豊かな生活の実現と地球環境に貢献します。

- 脱炭素化・循環型社会実現に向けた技術開発・環境負荷低減に取り組みます。
- ライフサイクル全体で、気候変動、資源循環、水保全、生物多様性に取り組みます。
- 多様な人材を基盤とし、未来を見据えて新たな環境価値創出に取り組みます。

YKK AP環境政策委員長
YKK AP株式会社 代表取締役社長

魚津彰

環境戦略と指標

■YKK APのパーパス・マテリアリティと環境戦略

YKK APは、パーパス「Architectural Productsで社会を幸せにする会社。」を掲げ、その幸せを実現するための重要な要素として「環境との共生」を位置付けています。

これをマテリアリティ（重要課題）の一つとして特定し、環境戦略の核に据えて推進しています。

YKK APのパーパス

「Architectural Productsで社会を幸せにする会社。」

いつの時代も私たちは、建築文化の根幹にあるArt(美しさ)とTechnology(技術力)にこだわり続けながら、
好奇心と探究心により、価値ある建築パーツ「Architectural Products」を生み出し、人と自然、未来をつなぎ、幸せな社会を実現します。

「幸せな社会を実現」するための要素

●好奇心と探究心

●ArtとTechnology
●価値ある建築パーツ

●人と自然をつなぐ(環境との共生)
●人と未来をつなぐ(持続可能な開発)

「経営視点」
事業方針

マテリアリティ検討軸

「社会視点」
ステークホルダーからの要請・
将来への期待

持続的成長を支える

「人材」

商品による社会課題解決と
競争力の源泉となる

「モノづくり」

社会的責任を果たすための

「信用・信頼」

YKK APのマテリアリティ（重要課題）

●ダイバーシティ&インクルージョン
●働きがい・働きやすさ
●新たな価値を創出する人材の開発・育成
●人権の尊重

●社会課題を解決し続ける
商品・サービス

●公正な事業活動
●レジリエントな経営基盤
●環境との共生

YKKグループ環境ビジョン2050

YKKグループ共通のビジョン「人と自然の未来をひらく」のもと、2050年の社会予測に基づいた「4つの重点項目」を掲げ、各領域で具体的な取り組みを展開しています。

「気候変動」「資源」「水」「自然」という地球規模の課題に対し、製造業としての責務を全うするとともに、事業を通じて社会にプラスのインパクトを与える価値創造を追求しています。

YKKグループ環境ビジョン2050

人と自然の未来をひらく

Towards a brighter future for nature and humanity



気候変動への対応

地球規模で起こっている気候の変動は、地球上に住むあらゆる生物にとって重要な問題となっています。この問題に対応することは社会の構成員としての責務であると考え、CO₂をはじめとした温室効果ガスの削減や気候変動への適応に取り組みます。

水の持続的利用

水は生命維持やあらゆる産業にとって欠かせない資源である一方、国や地域によって利用できる量や質が大きく変化します。社会との共存共栄を目指すわれわれにとって、地域と共に水資源を持続的に利用することは重要な課題であると考え、取水量の削減や排水の環境負荷低減等に取り組みます。

資源の活用

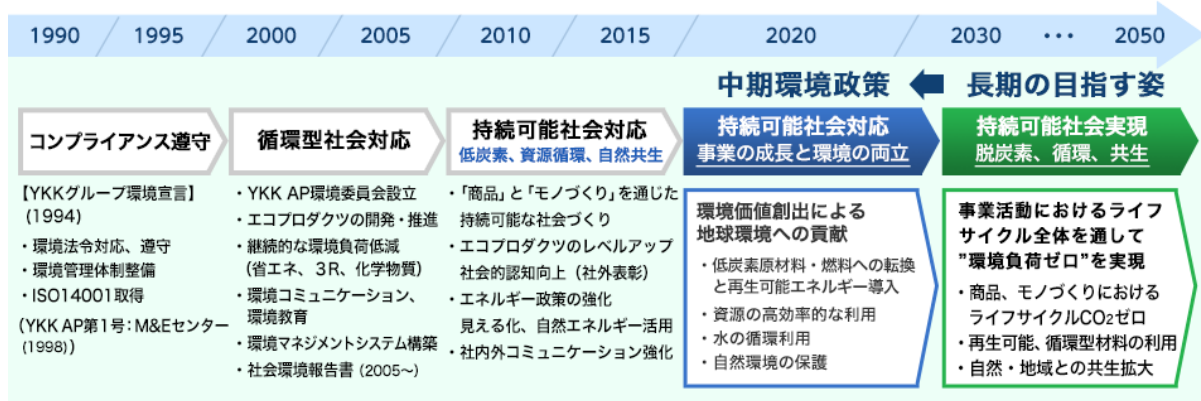
ファスナーや窓をはじめとした商品を作るメーカーとして、その材料となる各種の資源は不可欠な存在です。将来世代にわたり、われわれの商品を安定して提供していくためにも、限りある資源を最大限有効に活用するとともに、ライフサイクルを通じて発生する廃棄物を資源とする活動に取り組みます。

自然との共生

大気の安定や水の浄化、食料の提供、レクリエーションの場など、自然は豊かな生活に欠かせない存在です。将来世代にわたり、豊かな生活を残すため、自然保護や環境負荷の低減等に取り組みます。

環境への取り組み経緯と2050年の目指す姿

1994年の環境宣言を起点に、YKK APの環境活動は法令遵守から循環型モデルの構築、さらには持続可能な社会への貢献へと進化を遂げてきました。現在は、2050年を見据えた長期目標として、ライフサイクル全体における「環境負荷ゼロ」の達成を掲げ、脱炭素と資源循環の最大化に挑んでいます。



2026年度 YKK AP環境方針

YKK APは、環境経営方針に基づき、ライフサイクル全体で環境価値を創出し、グローバルな環境負荷低減活動を実践することで、カーボンニュートラル実現を目指します。

環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境関連の法規制およびその他の要求事項を順守するとともに、以下の4つの環境課題について目標を設定し、達成に向けて行動します。

🌿 気候変動

温室効果ガス削減に寄与する商品や気候変動対策商品を積極的に開発・販売します。

さらに、事業活動やバリューチェーンにおけるカーボンニュートラル実現に向け、低炭素な原材料・燃料への転換、効率的なエネルギー利用、再生可能エネルギーの導入に取り組みます。

🌿 資源循環

原材料・包装資材の投入量削減と廃棄物排出量の最小化に向け、資源の効率的な利用と排出物の分別・回収・リサイクルに取り組みます。

🌿 水保全

持続的な水利用と水環境の保全に向け、水の循環利用と排水の環境負荷低減に取り組みます。

🌿 生物多様性

事業活動による生態系への影響を最小限に抑え、生物多様性を保全するとともに、地域社会と連携して自然環境の保護に取り組みます。

環境戦略と指標

■ 目標と実績

YKK APでは、2050年のあるべき姿と環境経営方針に基づき、中期毎に環境目標を設定しています。

第7次中期環境事業計画（2025年度～2028年度）では、2050年のあるべき姿に向けて、バックカスティングで2030年の目標、さらに2028年度に達成すべき中期到達目標を掲げ、そこから各年度の数値目標とアクションプランを設定し、取り組みを進めています。

環境政策の目指す姿と指標

2026年度計画は最新の計画を反映

テーマ		指標	基準年度	対象	2026年度計画	2028年度計画	2030年度目標	2050年度の目指す姿
方針		・ 社会の長期目標： SDGs、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー ⇒ 「ライフサイクルの全ての段階で環境価値を創出」						事業活動におけるライフサイクル全体を通して“環境負荷ゼロ”を実現
環境課題	気候変動 →	CO ₂ 排出量 スコープ1+2 (千t-CO ₂)	2013 年度	YKK APグループ (日本+海外)	212 ▲51%	149 ▲65%	86 ▲80%	商品、モノづくりにおける ライフサイクルCO ₂ ゼロ
		CO ₂ 排出量 スコープ3 (千t-CO ₂)	2013 年度	YKK APグループ (日本+海外)	1,731 ▲31%	1,694 ▲32%	1,657 ▲34%	
	資源循環 →	リサイクルアルミ 使用比率	-	YKK APグループ (日本 製造拠点)	64%	71%	100%	再生可能材料 (低炭素・循環型) の利用
		廃棄物排出量 (千t)	2016 年度	YKK APグループ (日本+海外製造拠点)	16.2 ▲21%	14.7 ▲28%	12.3 ▲40%	
	水保全 →	水使用量 (百万m ³)	2013 年度	YKK APグループ (日本+海外製造拠点)	7.81 ▲38%	7.60 ▲40%	7.35 ▲42%	水の最大限循環利用

2025年度総括

環境経営方針で掲げる4つの環境課題「気候変動」「資源循環」「水保全」「生物多様性」で数値目標を掲げ、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーの実現に向けた取り組みを推進しています。

環境課題は自社CO2排出量、廃棄物削減など重要テーマで計画を達成しました。

公害・環境問題：海外拠点において規制されているアルミドロスについて、運搬時に雨水との接触を指摘され罰金を受ける事例がありました。運搬車両も含め屋内保管に変更し、保管規定を策定しました。

商品使用時のCO2削減貢献量：日本における販売は、住宅用高断熱窓・内窓を中心としたリフォーム商品、ビル改装分野が伸長したものの、新築分野が伸び悩み、全体では未達となりました。 2026年度も高断熱窓化の促進と断熱リフォーム商品の拡販を継続します。

エネルギー原単位：CO2排出量（総量）は計画を達成したものの、事業環境の変化に伴う生産ボリューム（売上高）の変動影響をカバーできませんでした。省エネ・創エネの推進と生産効率の向上により、原単位の改善を図ります。

水原単位：洗浄水の使用量増加と生産ボリューム減の影響より、未達となりました。洗浄水の多段利用、節水を中心に、更なる削減を進めます。

※達成度・・・ ◎：計画以上 ○：計画通り △：一部未達（>90%） ×：未達

テーマ		指標	2025年度		
			計画	実績	達成度
環境コンプライアンス →		公害・環境問題※2	0件	1件	×
環境人材 →		環境教育受講率※1	100%	100%	○
		環境アクション参加率※1	98%以上	98%	○
環境課題	気候変動 →	商品使用時のCO2削減貢献量※2	1,211千t-CO2 (2020年度比 252%)	1,084千t-CO2 (2020年度比 226%)	×
		CO2排出量※2 スコープ1+2	244千t-CO2 (2013年度比 ▲43%)	239千t-CO2 (2013年度比 ▲44%)	○
		エネルギー原単位※1	前年比 ▲1.3%	前年比 ▲0.4%	△
	資源循環 →	廃棄物排出量※3	18.4千t (2016年度比 ▲10%)	16.9千t (2016年度比 ▲18%)	◎
		廃棄物原単位※3	2016年度比 ▲37%	2016年度比 ▲39%	○
		廃棄物リサイクル率※3	98%	98%	○
	水保全 →	水使用量※3	7.94百万m ³ (2013年度比 ▲37%)	7.99百万m ³ (2013年度比 ▲36%)	△
		水原単位※3	2013年度比 ▲57%	2013年度比 ▲54%	△
	生物多様性 →	社会貢献件数※2	220件	計234件	○

※1 YKK APグループ（日本）
※2 YKK APグループ（日本+海外）
※3 YKK APグループ（日本+海外製造拠点）

2026年度の数値目標とアクションプラン

テーマ		指標	2026年度 環境活動計画	
			計画	アクションプラン
環境コンプライアンス →		公害・環境問題※2	0件	ISO14001の拡大、運用管理強化
環境人材 →		環境教育受講率※1	100%	次代を担う環境人材の育成と全員参加の環境活動
環境課題	気候変動 →	商品のCO2削減貢献量※2	1,227千t-CO2 (2020年度比 256%)	温室効果ガス削減に寄与する商品の開発・販売
		CO2排出量※2 スコープ1+2	212千t-CO2 (2013年度比 ▲51%)	カーボンニュートラル技術開発 (省エネ・プロセス転換・創エネ・物流・材料)
		エネルギー原単位※1	前年度比 ▲1.3%	
	資源循環 →	廃棄物排出量※3	16.2千t (2016年度比 ▲21%)	RPF製造・破砕機導入による廃棄物の有価物化
		廃棄物原単位※3	2016年度比 ▲47%	
		廃棄物リサイクル率※3	99%	
	水保全 →	水使用量※3	7.81百万m ³ (2013年度比 ▲38%)	水の循環利用推進
		水原単位※3	2013年度比 ▲59%	
	生物多様性 →	社会貢献件数※2	235件	地域・自然と共生する環境保全活動

※1 YKK APグループ（日本）
※2 YKK APグループ（日本+海外）
※3 YKK APグループ（日本+海外製造拠点）

環境戦略と指標

■ イニシアチブへの賛同・加盟

YKK APでは国際的なイニシアチブに賛同・加盟し、国際基準に基づいた目標・実績管理に取り組んでいます。

	GXフューチャー・コンソーシアム / GXフューチャー・リーグへの参画	2026年4月
	水循環ACTIVE企業認証を取得	2024年10月
	サーキュラーパートナーズ	2024年2月
	日本気候リーダーズ・パートナーシップ (JCLP) への加盟	2023年5月
	エコ・ファースト認定を取得 →	2023年4月 2026年2月更新
	循環経済パートナーシップ (J4CE) への参加	2022年10月
	気候変動イニシアティブへの賛同	2022年6月
	国連グローバル・コンパクトへの署名	2021年5月
	TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース) の提言への賛同 →	2019年5月
	SBT (Science Based Targets) イニシアチブの認定を取得	2019年1月 2021年2月更新

環境戦略と指標

■ 環境に関する社会的評価

YKK AP30ビルが『ZEB』および「WELL認証」プラチナを取得

富山県黒部市の「YKK AP30ビル」が、建築物省エネルギー性能表示制度「BELS」において、年間の一次エネルギー消費量を正味ゼロ以下にする『ZEB』認証を2024年11月に取得。また、建物で働く人の健康・幸福に焦点を当てた国際評価制度「WELL認証」の最高ランク「プラチナ」を2025年11月に取得しました。「杜の中のオフィス」をコンセプトに2024年に竣工した同ビルは、高断熱な自社製のフルハイト窓「SYSTEMA 31」の採用や、伝統的な屋敷林「カイニヨ」の知恵を模した植栽計画、井水の空調熱源への活用などにより、高い省エネ性を実現。また、景観豊かな執務エリアや地元食材を採用するカフェテリアの設置など、社員の働きやすさとウェルビーイングの向上を追求しました。建物の省エネ性能と働く人の快適性の両立が、今回の2つの認証取得につながりました。



※International WELL Building Institute™およびその関連ロゴは、International WELL Building Institute™の商標であり、同社の許可を得て使用しています。

ボルーカ社が「IBAAS-IMMT-IIMカンファレンス2025」でダブル受賞

ボルーカ社は2025年10月、インドのアルミニウム産業において最も権威ある「IBAAS-IMMT-IIMカンファレンス2025」のESGアワード部門で、同社初となるブロンズ賞を受賞しました。マイスール工場で使用する全電力の約88%を再生可能エネルギーから調達し、CO₂排出強度を大幅に削減した実績や、排水ゼロへのロードマップ策定、マイスール工場の敷地内の緑化推進など、数値目標に基づいた実効性のあるESG施策が評価されました。

また、技術論文部門においてもPavan Kumar BSさんの論文「アルミニウム押出業界におけるカーボンフットプリントの低減」が1位を獲得。同社の技術的優位性と製造現場における知見の深さを証明するものとなりました。ボルーカ社は今後も、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを推進していきます。



技術論文部門で1位を獲得したPavanさん（左）

YKK APがCDPの「サプライヤーエンゲージメント・リーダー」に初選定

YKK APは、環境分野の情報開示を推進する国際的な非営利団体CDPが実施する2025年度の「サプライヤーエンゲージメント評価」において、最高評価の「サプライヤーエンゲージメント・リーダー」に初めて選定されました。

本評価は、企業のサプライチェーン全体における気候変動への取り組みを審査・格付けするものです。YKK APは、スコープ3におけるCO₂排出量削減に向け、アルミの市中リサイクル材の調達を推進するなど、お取引先と協働した実効性ある活動が評価されました。今後もサプライヤーの皆さまとともにサプライチェーン全体の環境負荷低減を推進し、持続可能な社会の実現に貢献します。



市中リサイクル材

環境戦略と指標

■ 「エコ・ファーストの約束」と進捗状況

YKK APは、環境省の定める「[エコ・ファースト制度](#)」^{※1}において、2023年4月に初めて「エコ・ファースト企業」として認定されました。2026年2月には「エコ・ファーストの約束」を更新し、再認定を受けています。

※1 環境の分野において「先進的、独自のでかつ業界をリードする事業活動」を行っている企業（業界における環境先進企業）であることを、環境大臣が認定する制度

YKK APは、2050年の目指す姿として「事業活動におけるライフサイクル全体を通して“環境負荷ゼロ”を実現」を掲げています。その実現に向け、ライフサイクルの全ての段階で環境価値を創出するとともに、グローバルな環境負荷低減活動を実践しています。特に、「気候変動」「資源循環」「水保全」「生物多様性」の4つの環境課題について目標を設定し、その達成に向けた取り組みを推進しており、こうした取り組みを「エコ・ファーストの約束」として宣言しています。

YKK APの「エコ・ファーストの約束」 [詳細はこちら](#)

- 2040年カーボンニュートラルに向け、事業活動の全工程で温室効果ガス削減や気候変動への適応に取り組みます。
- 商品のライフサイクルを通じ廃棄物発生を抑制するべく、サーキュラーエコノミーの概念を取り入れ持続可能な資源の利用を進めます。
- 事業活動による生態系への影響を最小限に抑えるとともに、地域社会と連携して自然環境の保護に取り組み、自然・地域との共生を目指します。



「エコ・ファーストの約束」進捗状況

<達成度> ◎：計画以上 ○：計画通り △：一部未達（＞90％） ×：未達 ー：定性目標のため対象外

約束内容		2025年度計画	2025年度実績	達成度	取り組みの詳細
約束1	高断熱窓の普及による家庭・オフィスビル等の民生部門におけるCO ₂ 排出量の削減に貢献 ※4	2020年度比 252%	2020年度比 226%	×	気候変動 → TCFDに基づく情報開示 → 目標と実績 →
	事業活動による自社からのCO ₂ 排出量（スコープ1+2）を2030年度までに2013年度比80%削減、温室効果ガス排出量2040年実質ゼロ※4	2013年度比 43%削減	2013年度比 44%削減	○	
	サプライチェーンCO ₂ 排出量（スコープ3）を2030年度までに2013年度比30%削減※4	2013年度比 21%削減	2013年度比 30%削減	◎	

約束2	廃棄物排出量の最小化※5	18.4千t (2016年度比 10%削減)	16.9千t (2016年度比 18%削減)	◎	資源循環 →
	廃棄物リサイクル率の向上※5	98%	98%	○	
約束3	水使用量の削減※5	7.94百万m ³ (2013年度比 37%削減)	7.99百万m ³ (2013年度比 36%削減)	△	水保全 →
	大気汚染物質の低排出量の維持※5	—	—	—	グローバルな環境経営 度向上 →
	化学物質の使用量および排出・移動量の削減 ※1	—	—	—	
	国内・海外の全拠点において、 環境保全活動を実施※4	220件	234件	○	生物多様性 →
	従業員への環境自覚教育、 全員参加型の環境アクション※2	環境教育受講率100% SDGsアクション参加率 98%	環境教育受講率100% SDGsアクション参加率 98%	○	環境人材 →
	子どもたちへの環境教育やボランティア活動 ※4	—	次世代教育支援 13件	○	生物多様性 →

※1：YKK AP単体

※2：YKK APグループ（日本）

※3：YKK APグループ（日本製造拠点）

※4：YKK APグループ（日本+海外）

※5：YKK APグループ（日本+海外製造拠点）